

旭川医大 病院ニュース

<https://www.asahikawa-med.ac.jp/>



編集 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
谷野美智枝

赤ちゃんにやさしい病院(BFH)認定20周年を迎えて ～記念講演会から母乳育児支援のこれからを考える～

産産母子センター長 長屋 建

当院は2005年にユニセフ・WHOより赤ちゃんにやさしい病院(Baby Friendly Hospital:BFH)の認定を受け、昨2025年に20周年を迎えました。この節目にあたり、認定当時より院内外で多大なご尽力をいただきました北海道療育園園長の林 時仲先生をお招きし、記念講演会を開催いたしました。ハイブリッド形式で実施し、計80名の皆さまにご参加いただき、盛会のうちに終了いたしました。

林先生には、社会の変化の中における母乳育児支援の意義と課題について、「母乳育児支援の歴史から見えてくること」「なぜ母乳育児なのか」「当院がBFHであり続ける意義」という観点から、非常にわかりやすくご講演いただきました。

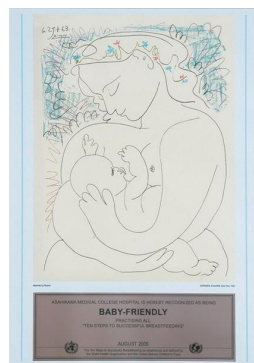
講演では、母乳の利点や日本発のエビデンスの蓄積についてご紹介いただくとともに、母乳育児支援は単なる「母乳推進」ではなく、社会全体に関わる取り組みであることが強調されました。そして、①目の前の母子への支援、②母子の一生や当院の将来に与える影響、③社会や国をより良くしていく視点、という三つの軸を持つことの重要性をご教示いただきました。これらの視点のもと、母乳育児を通じた母子相互作用により母子の関わりが育まれ、それが母親の自信につながり、子どもの健やかな成長、さらには次世代の育成や社会の発展へとつながっていくという、母乳育児の大きな可能性についてもお示しいただきました。さらに、大学病院のBFHとして、高度医療や地域医療への貢献に加え、研究や地域への教育といった役割を担っていくことの重要性についてもご示唆をいただきました。

昨今、日本の母乳育児率はコロナ禍以降低下傾向にあり、「ミルクでもよいのではないかな」という声が聞かれることもあります。決してミルクを否定するものではありませんが、母乳が赤ちゃんにとって最良であることは広く知られているところです。また、多くの母親が「できれば母乳で育てたい」と願っていることも事実です。しかし現代社会では、母乳育児を妨げるさまざまな障壁が存在し、知らず知らずのうちに「できれば」が「できなかった」へと変わってしまうことがあります。BFHは、母乳で育てたいと願う母親に寄り添い、そのような障壁を取り除くとともに、少しでも母乳育児の喜びを感じていただけるよう支援することを使命としています。

近年の社会や価値観の変化に伴い、どのような支援が母子にとって最も望ましいのか、私たち自身も迷いながら模索を続けているところです。そのような中で、今回の講演は、私たちが母乳育児支援に取り組む意義を改めて見つめ直す貴重な機会となりました。

私たちは今後も、母子のため、病院のため、そして社会や国の未来のために、数少ない大学病院のBFHとしての役割を果たし続けてまいります。

引き続き、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



今号の掲載記事

- | | | | |
|---|---|---|---|
| ○ 赤ちゃんにやさしい病院(BFH)認定20周年を迎えて | 1 | ○ 【シリーズ・診療科紹介】 | 6 |
| ○ 新人医師・新人看護師デビュー | 2 | - 外科(消化器・移植) | |
| ○ 【報告】クラウドファンディングプロジェクト「微生物から薬を創る! 小児白血病の薬のタネを探る、創薬研究の第一歩を」 | | - 整形外科 | |
| ~1年間の成果報告~ | 2 | ○ 【薬剤部】副作用情報(85) 無顆粒球症 | 7 |
| ○ 【報告】看護の日・看護週間行事を終えて | 3 | ○ 【臨床検査・輸血部】中央採血室「採血呼び出し目安時間表」の運用開始について | 7 |
| ○ 【報告】医大祭2026報告~地域と繋がる医大祭~ | 3 | ○ 【お知らせ】「ARどうぶつえん」小児科病棟ほかでの常設導入へ | 8 |
| ○ 【報告】2025年度ベトナム口唇口蓋裂医療援助ボランティア活動報告 | 4 | ○ 看護学科開設30周年記念事業「学びを支えるロッカー刷新」プロジェクトご寄附のお願い | 8 |
| ○ 【お知らせ】覗いてみよう医療の世界! オープンホスピタル2026 | 4 | ○ 患者数統計 | 8 |
| ○ 【新たな取組】医学・医療研究ネットワーク「アライアンス5」に期待するもの | 5 | ○ 時事ニュース | 8 |
| ○ 【報告】診療技術部のメリットを生かしたBLS講習 | 5 | ○ 編集後記 | 8 |



／ 新人医師、新人看護師 デビュー ／



「丁寧に着実に泥臭く」

研修医 吉田 大進



まずは日々お世話になっている各科の先生方、メディカルスタッフの皆さまには厚く御礼申し上げます。また初期臨床研修にご理解ご協力を賜っております患者の皆さまにも心より感謝申し上げます。

主に病棟業務を任せていただき、知らない事や判断しかねる事ばかりの毎日で「分からないことが出てくる度に調べて覚える、調べても分からなければ経験豊富な指導医に教えていただく」というサイクルを繰り返しております。

自分の至らなさにフラストレーションが溜まりますが、基本を体得せずして応用はできないでしょうから、日々の業務を丁寧に着実に泥臭くこなしていきたいと思います。同時に、どれだけ座学をしても臨床現場に隣る知見はないという事も実感しており、座学も臨床経験もバランス良く学ぶ必要もあると感じています。

少しでも早く患者さんへ還元できるよう精進し続けます。皆さまには今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「理想の看護を目指して」

5階西ナーステーション 佐藤 巧望



私は、看護学生の時に5階西ナーステーションで看護補助のアルバイトをしていました。

看護師となった今、当時の業務内容や院内の仕組みなど様々なことが役立っています。自分で出来ることはまだ少ないですが、部署の先輩方をはじめアルバイトの時からたくさん声をかけてくださったナースエイドの方々に支えられながら、日々多くのことを学んでいます。何より、不慣れなケアも快く受け入れてくださる患者さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも多くの方々にお力添えいただきながら、患者さんに寄り添った看護を提供できるよう、精進してまいります。



私たちの呼び方が「看護助手」から
「ナースエイド」に変わりました！

報告

クラウドファンディングプロジェクト「微生物から薬を創る！小児白血病の薬のタネを探す、創薬研究の第一歩を」～1年間の成果報告～

消化器先端医学講座 特任講師 小西 弘晃

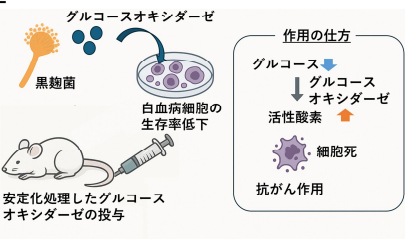
本プロジェクトが始まってから、1年が経ちました。2026年3月12日にはオンライン講演会を開催し、この1年間の研究成果をご報告いたしました。

この研究では、「微生物がつくる成分から、小児白血病の新しい治療薬の可能性を見つける」ことを目標に研究を進めています。この1年間で、黒麹菌がつくり出すグルコースオキシダーゼという成分に、小児B細胞性白血病に対する治療効果の可能性あることを明らかにしました。この成果は論文や学会でも報告し、本プロジェクトの大きな推進力となりました。一方で、研究を進める中で新たな課題も見えてきました。例えば、この成分を実際の薬として応用するためには、体の中で安定して働けるようにする工夫が必要です。そのため、成分をより効果的に届けるための製剤開発研究が重要になることも分かってきました。

また、乳酸菌がつくる低分子ペプチドにも、強い抗白血病作用の可能性あることがつかめてきました。どのように作用するのか、また分子の特徴を明らかにできれば、研究をもう一段階前へ進められると期待しています。このように、微生物由来成分には多くの可能性が秘められていると感じています。

本プロジェクトでは、新しい治療法の開発だけでなく、大学院生や若手研究者の育成、研究技術の継承も大切な目標としています。研究を支える人づくりも、未来の医療につながる大切な取り組みだと思います。このような成果の積み重ねが、将来のがん治療の飛躍につながることを信じ、これからも研究を進めていきます。興味をお持ちの方は、ぜひ研究成果報告会や関連活動にもご関心をお寄せいただければ幸いです。今後とも、皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

コメントやご意見がある方は、小西(E-mail:hkonishi★asahikawa-med.ac.jp<★を@に変えてください>、TEL:0166-68-2462)までご連絡いただければ幸いです。



報告

看護の日・看護週間行事を終えて

看護部



看護部では、フローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日に合わせて、『看護の心、ケアの心、助け合いの心』を分かち合うための看護の日・看護週間行事を開催しました。

イベント内容は、昨年に引き続き入院患者さんへのメッセージカード配布と、『看護の心を音にのせて』というテーマのもと、病院の正面玄関でホルンのミニ演奏会を実施しました。アンケートでは「家族と聴けてとても心に残る良い思い出となった」「入院した日から楽しみにしていた」「心と身体に頑張る力が出了た」など、多くの喜びの声をいただきました。また、今年度は看護の心を表現した川柳や看護部インスタグラムの紹介等を載せた『看護の日だより』を作成し、正面玄関ホールや外来棟で配布しました。さらに5月15日には『ふれあい看護体験』を行い、市内の高校生29名が参加し、病棟体験を実施してもらいました。参加者の中には昨年のオープンホスピタルに参加していた方もいて、「とても楽しかったから、今日もとても楽しみにしていた」と待ち望んでいたことを教えてくれました。また、患者さんへの清潔ケアなどを実際に体験し、患者さんから直接激励の言葉をもらって笑顔あふれる時間になっていました。午後からは看護師による講演を行い、心に残った看護エピソードやフライトナース・DMATの活動、助産師人事交流の経験について、

聴いていただきました。参加者の皆さんが熱心にメモを取り、真剣に耳を傾けている姿が印象的でした。

今年の日本看護協会のテーマは『みつめる、その先のわたしへ』でした。今回の体験を通じて、参加者の皆さんが看護職に関心を持ち、将来の選択肢の一つになることを期待します。



報告

医大祭2026報告 ～地域と繋がる医大祭～

医大祭実行委員会

2026年6月6日および7日の2日間、旭川医科大学祭を開催いたしました。患者さんや地域の皆さんをはじめ、多くの方々にご来場いただき、無事に全日程を終了できましたこと、ご協力いただいたすべての皆さんに心よりお礼申し上げます。今年度は「医風堂々」をテーマとし、「医療を志す者としての誇りを持ち、人と真摯に向き合いながら成長していきたい」という思いを掲げ、皆さんに楽しんでいただけるよう、学生主体で準備を進めてまいりました。今回は、医療への関心を高めていただける学術的な催しと、地域の皆さんに笑顔をお届けする企画の両立を目指しました。本学薬理学講座の中山先生による公開講座、および本学基礎医学講座による「基礎医学展」では、私たちが日頃探求している医学の奥深さを分かりやすくお伝えできたと思っております。

また、元スピードスケート選手でメダリストの高木菜那さんの講演会では、目標に向かって挑戦する姿勢に多くの感動の声が寄せられました。さらに、人気芸人「ジョイマン」さん、「秘蔵」さんのお笑いライブや、旭川市内の高校生とのコラボレーションイベントなど、会場のあちこちで世代を超えた活発な交流と、さまざまな笑顔があふれる時間となりました。

医大祭を通じた地域の皆さんとのふれあいは、将来医療従事者となる私たちにとって、人と向き合う心を養うかけがえのない経験です。

これからもさらに魅力的な医大祭が開催できるよう努めてまいります。皆さんのお越しをお待ちしております。

時間	6/6	6/7
●フリーマーケット	6/6 9:00~13:00	6/7 9:00~13:00
●花火大会	6/6 19:40~	6/7 19:40~
●音楽会	6/6 9:00~16:00	6/7 9:00~16:00
●観劇会	6/6 9:00~19:30	6/7 9:00~19:30
●医学展	6/6 10:00~17:00	6/7 10:00~17:00
	6/6 9:30~14:30	6/7 9:30~14:30

報告

2025年度ベトナム口唇口蓋裂医療援助ボランティア活動報告

歯科口腔外科学講座 荒井 五織・吉田 将臣

歯科口腔外科学講座では、2007年からベトナムで口唇口蓋裂の患者さんを対象とした医療支援活動を継続しています。COVID-19の影響で一時中断しましたが、2024年度に再開し、2025年度も日本口唇口蓋裂協会主催の短期滞在型医療支援に参加しました。旭川医科大学診療隊は6名（歯科口腔外科医2名、麻酔科医1名、看護師1名、医学生2名）で活動に加わりました。

【活動概要】

活動拠点はこれまでと同じベンチェ地域でしたが、2025年6月12日にベトナム国会で省・中央直轄市の再編が決定され、旧ベンチェ省、旧チャーヴィン省、旧ビンロン省は新たにビンロン省として統合されました。こうした変化を踏まえ、現地医療機関と調整しながら活動を行いました。

活動期間は2026年3月21日から29日までの9日間で、グエンディンチュー病院で実施しました。歯科口腔外科医、麻酔科医、小児科医、看護師、医学生、歯学生など約60名の多職種チームが参加し、診療に加えて現地スタッフとの連携や意見交換も行いました。

【診療実績】

現地では術前スクリーニングとして49名を診察し、そのうち27名に手術を行いました。昨年より患者数は減少しましたが、行政再編に伴う受け入れ体制の変化や周知の遅れが影響した可能性があります。限られた資源の中でも必要な器材や薬剤を確保し、安全に配慮しながら診療を進めました。

【活動の意義】

メコンデルタ地域には、医療へのアクセスに課題を抱える患者さんが少なくありません。今回手術を受けた患者さんの年齢は生後2.5か月から55歳まで幅広く、二次手術を必要とする症例も含まれていました。適切な時期に治療を受ける機会が限られている患者さんに医療を届けることの重要性を改めて実感しました。

また、本活動は診療支援に加え、現地医療従事者との協働を通じた人材育成や継続的な医療連携にもつながっています。今後も現地との連携を大切にしながら、必要とされる医療支援を継続してまいります。本活動にご理解とご協力を賜りました旭川医科大学関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



▲ 集合写真



▲ 手術の様子

お知らせ

覗いてみよう医療の世界！ オープンホスピタル2026
3回目の今年は 9月26日（土）に開催

オープンホスピタルは、旭川医科大学病院が地域に開かれた病院として、若い世代に病院と医療職などの魅力を発信することを目的としています。昨年は、看護部、薬剤部、臨床検査・輸血部、放射線部、リハビリテーション部、臨床工学室、栄養管理部の各部門における具体的な仕事を体験してもらいましたが、今年は、外科学講座（消化器・移植外科学分野）、救急医学講座の協力のもと、医師体験ブースも新たに設置することとなりました。

また、みんな大好き、旭川市が誇るシンボルキャラクター「あさっぴー」も来場しますので、一緒に記念撮影をしませんか。

メディカルスタッフの世界を「見て・触れて・体験」することで、知られざる新たな魅力を発見し、将来の進路選択の一助となれば幸いです。この機会に、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

新たな取組

医学・医療研究ネットワーク「アライアンス5」に期待するもの

副学長（研究担当） 川辺 淳一

2025年7月に、旭川医科大学は、山口大学、秋田大学、香川大学、鳥取大学と包括連携協定「Alliance(アライアンス)5」を締結しました。本協定は、人口減少や少子高齢化が進む地域を基盤とする5つの国立大学医学部が連携し、共通する医療課題の解決に向けた研究活動を推進することを目的としています。

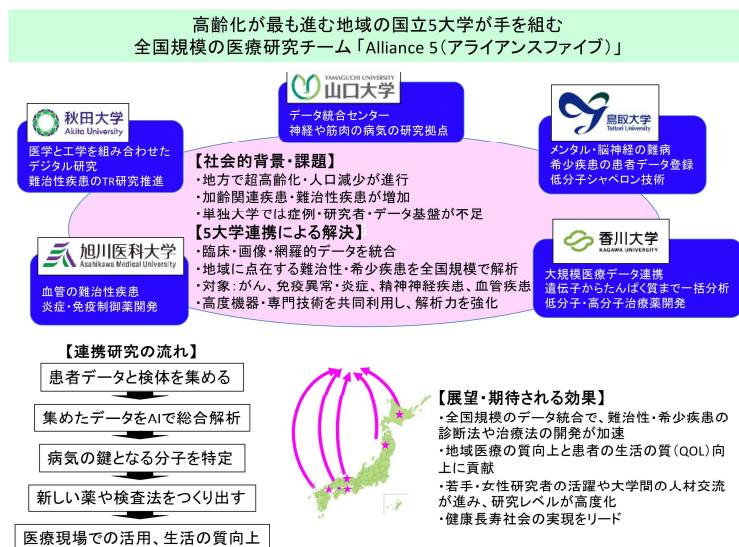
現在、日本の多くの地方大学では、人材や資金的な問題で研究力低下が懸念されております。また、地方大学単独では症例数が不足しやすい希少疾患・難治性疾患研究、加齢関連疾患は地域特性や偏在があるなどの課題があります。

Alliance5では、北海道、東北、中国、四国といった異なる地域に位置する医学系大学が連携することで、それぞれの大学が持つ専門知識・情報の統合、さらに研究設備を活用し、全国規模で行う「統合医科大学」的な研究ネットワーク活動を志向しています。各大学が有する研究基盤や地域特性を活かしながら、地域住民の健康維持や疾病予防、高齢者医療、医療提供体制の最適化など、多岐にわたる課題について連携して研究を進めることで、新たな知見の創出と社会実装を目指しています。

また、大学間で研究者や学生の交流を促進し、共同研究や研究成果の発信を通じて、全国の地域医療の発展に貢献することが期待されています。

旭川医科大学はこれまでも、北海道の地域医療を支える医学教育・研究を推進してきました。Alliance5への参画により、全国の地域基盤型医学部との連携を強化し、地域医療が抱える課題に対する研究をさらに発展させていきます。

そして、この一連の連携研究活動を通じて、次世代を担う医療人の育成を進め、得られた研究成果を、一つでも多く医療の現場につなげ、地域社会に貢献してまいります。



報告

診療技術部のメリットを生かしたBLS講習

診療技術部長 宗万 孝次

BLS(Basic Life Support)とは、心停止や呼吸停止などの緊急時に現場で行う、胸骨圧迫(心臓マッサージ)やAED(自動体外式除細動器)の使用などを含む一次救命処置のことを指します。心肺停止の患者さんの予後は、このBLSによって左右される面があり重要な処置の一つです。

病院の医療体制や安全性などを第三者が評価する「病院機能評価」というものがあります。安心安全な医療を提供する病院として、この「病院機能評価」というものは重要な位置を占めています。その病院機能評価の審査では、病院に勤務する職員全員が5年に1回以上、BLSの実技訓練を行うことが求められています。

本院ではBLS講習を実施していますが、職員全員の受講には、大変な労力が必要です。そこで、各部署が協力し、効果的かつ効率的にBLS講習の受講機会を確保するために、診療技術部でもBLS講習を企画し、毎月1回実施することとしました。診療技術部に所属する新人職員に対しても、新人オリエンテーションの中で、診療技術部で企画したBLS講習を実施しています。

診療技術部には様々な職種が所属していますが、その中にはBLSを専門の一つとする救急救命士も所属しており、講師として積極的に参画しています。また臨床工学技士にもBLSインストラクターの資格を持つ者がいるので、講習は両名による講師2名体制で実施しています。

診療技術部という1つの部ですが、なかなか一緒に業務を行うことがない職種もあります。BLS講習などを通じて、職種間の連携や病院職員間のコミュニケーション構築につながることも期待しています。



シリーズ 診療科紹介

外科（消化器・移植）

外科学講座（消化器・移植外科学分野） 教授 横尾 英樹

～専門性の高い一般外科を目指す～

外来での名称は変わっておりませんが、より高い専門性を求めて分野が分かれていた消化管外科と肝胆膵・移植外科は、このたび再度統合されて消化器・移植外科となりました。近年は外科手術症例が特定の施設に集中する傾向がみられており、少ない人数で高い専門性を保ちつつ、より幅広い疾患に対応できる消化器外科、一般外科医の育成を行うことが、北海道、とくに道北・道東地域に貢献するためには必要不可欠と考えています。

消化管チームは、消化管の悪性腫瘍（大腸癌、胃癌、食道癌など）のほか、炎症性腸疾患に対する外科治療および薬物療法を含む周術期治療を行っており、肝胆膵・移植チームは、日本肝胆膵外科学会が定める高度技能修練A施設として、肝胆膵の悪性腫瘍（肝癌、膵癌、胆道癌など）や良性疾患に対する高難易度肝胆膵外科手術、および道北地方唯一の移植施設として腎移植を含む移植医療を行っております。また、増加している夜間・休日の腸閉塞、虫垂炎、腹膜炎等の腹部救急疾患に対しては、専門にかかわらず消化器外科として皆で分担して診療にあたっています。

患者さんへの負担が少ない低侵襲手術はすでに全国的に普及しておりますが、当科は全国でもいち早くこれに取り組み、現在では消化管外科の腹腔鏡およびロボット支援手術率は約90%、開腹手術の多い肝胆膵・移植外科においても約30%を占めています。また、一般社団法人AMUSE（旭川医大外科学講座教育支援機構）の発足以来、血管外科・呼吸器外科・小児外科・乳腺外科・心臓外科（旧第一外科）との連携が深まり、体外循環を用いた手術や動脈合併切除再建等の高難易度手術も安全に行われております。

今後も地域に根ざし、専門性と総合力を兼ね備えた外科医療を実践してまいります。

外科学講座（消化器・移植外科学分野）について詳しくはこちら→
<https://asahikawa-hbpt-gastro.jp/>

シリーズ 診療科紹介

整形外科

整形外科科学講座 教授 伊藤 浩

～患者さんや家族の笑顔のために、道北の整形外科医療の砦として～

整形外科は、股関節班、脊椎班、上肢班、下肢班、腫瘍班の5グループによる診療を行っております。全身の運動器を対象としていますが、筋骨格系は人体における最大かつ最重量の組織であり、疾患は非常に多岐にわたります。代表的な疾患として、変形性関節症・脊椎症、外傷による骨折、手指外傷や切断、神経障害、骨軟部腫瘍のほか、スポーツ外傷、運動障害、先天性運動器疾患、骨粗鬆症などが挙げられます。

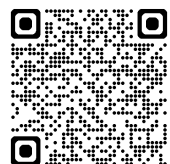
このように幅広い整形外科診療の基盤でもある日本整形外科学会は2026年に創立100年を迎えます。生命に直結する医療という観点では、内科学や外科学にやや遅れて発展した分野ではありますが、患者数は非常に多く、全国の専門医数もこれら診療科に次ぐ規模となっております。近年では、平均寿命の延伸に加え、運動機能や社会活動へのニーズの高まりもあり、整形外科が医療・福祉で果たす役割はますます大きくなっています。私たちは筋骨格系疾患の診療のみにとどまらず、人の「歩ける」、「動ける」、「痛くない」を支える医療のパートナーとして、役立ちたいと考えております。

道北地域の難治疾患、希少疾患の拠点として、旭川医科大学整形外科に関わるすべての患者さん、ご家族、そして医療者

の笑顔を目指し、日々研鑽を積んでおります。外来は紹介制となっておりますが、受診をご希望の際は、お気軽に近くのかかりつけ医へご相談ください。詳細は下記ウェブサイトから当科ホームページをご参照ください。



整形外科科学講座について詳しくはこちら→
<https://orthop.asahikawa-med.ac.jp>



薬剤部

副作用情報 (85)

無顆粒球症

薬品情報室 飯田 慎也

無顆粒球症は、血中の顆粒球が著しく減少する病態である。定義上は、顆粒球数が500個/ μ L以下とされ、典型例ではほぼ0となる一方、赤血球および血小板数は通常正常値を示す。臨床症状は突然の高熱、悪寒、咽頭痛などの感染症状であり、適切な治療を早期に開始しないと致死的となりえる。

発症原因は医薬品が最も多いとされる。薬剤性無顆粒球症の発症機序は、顆粒球前駆細胞に直接作用し細胞分裂やたんぱく質合成を阻害する「中毒性機序」と、B細胞を刺激することで産生された抗顆粒球抗体の働きによる「免疫学的機序」に大別される。

原因薬剤は多岐にわたるが、第一に抗がん剤が挙げられる。がん薬物療法では血球減少が発生することを想定して治療が計画される。抗がん剤以外では、抗精神病薬のクロザピン、抗甲状腺薬のチアマゾール、抗血小板薬のチクロピジン、抗真菌薬のテルビナフィンが代表的薬剤であり、添付文書の「警告」欄で定期的な血液検査の実施が求められている。患者には、副作用の説明に加えて、自覚症状を感じたときには直ちに受診するように指導する。

薬剤性無顆粒球症の治療で最も重要なことは、被疑薬の即時使用中止である。発熱が見られる場合には、それに加えて血液培養を含めた細菌学的検査を行い、結果を待たず直ちに広域スペクトラムの抗菌薬を十分量投与する。顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)が有用とする報告もあるが、最適な対象症例や投与量等は確立していない。顆粒球の回復時期は個人差があり、被疑薬中止後1～3週間であることが多い。

<参考文献>

「重篤副作用疾患別対応マニュアル(無顆粒球症)令和4年2月改定、厚生労働省」

<https://www.pmda.go.jp/files/000245257.pdf>

大学の活動内容をお知らせする
公式ニュースレター発行中

毎月執筆担当が変わる「〇〇目線」、「学長#ひとりごと」など
ちょっと気になる話題が毎月届きます♪ 登録はこちら→



臨床検査・輸血部

中央採血室「採血呼び出し目安時間表」の運用開始について

採血・生理検査部門 谷本 樹哉

採血呼び出し目安時間のご案内

受付番号	呼び出し目安時間
～40	8:40-9:00頃
～100	9:00-9:30頃
～160	9:30-10:00頃
～220	10:00-10:30頃
～280	10:30-11:00頃

※当日の混雑状況、機器トラブル等で時間が前後することがございます。ご了承ください。



中央採血室では、病院正面玄関開扉後の7時より受付用整理券を配布し、7時30分から自動受付機での受付を開始しています。採血対応時間は8時40分から15時までです。

当院では、受付時に発行される「採血受付番号」順に、中待合や各採血台へご案内しています。このたび、待ち時間を有効に活用していただけるよう、「採血呼び出し目安時間表」を作成し、中央採血室前に掲示しました。

採血待ち時間中に、心電図検査やエックス線検査など、他の検査を先に受けていただくことも可能となりますので、目安時間をご活用ください。

なお、緊急対応や患者さんの体調確認等により、採血の順番や呼び出し時間が前後する場合があります。また、患者さんがお戻りの際、受付番号が過ぎている場合には、中央採血室受付スタッフへお声がけいただくようお願いいたします。

今後も、患者さんに安心して採血を受けていただけるよう努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

お知らせ

「ARどうぶつえん」小児科病棟ほかでの常設導入へ

小児科

小児科では、株式会社STARIUMと一般財団法人旭川産業プラザとの協力により、院内に「ARどうぶつえん」を常設導入することとなりました。

これは、拡張現実(Augmented Reality:AR)技術を活用したコンテンツであり、専用アプリをダウンロードしたスマートフォンやタブレット端末等をかざすことで、その場に動物たちが現れ、目の前を動き回っているかのような臨場感を体験できるものです。

この取り組みは、旭山動物園が3D動物データの構築監修に携わったご縁から、2024年に当院において1日限定先行イベントとして実施しました。多くの小児患者さんやご家族に大変ご好評をいただき、院内療養環境の改善に大きな可能性を持つ取り組みであると実感できました。また、多くのメディアにも取り上げていただきました。

このたび、市内を中心に企業の皆さまからのご協賛を募り、本コンテンツの常設導入を目指すこととなりました。夏ごろには運用開始の予定で、当面は4階西病棟ロビー・プレイルーム、ならびに病院正面玄関ロビーに、「ARどうぶつ」たちが「生息」する予定です。入院中の子どもたちが、笑顔になれる空間づくりにつながることを願っております。



※ 写真は2024年のイベント時のものです

看護学科開設30周年記念事業

老朽化ロッカー更新プロジェクト ご寄附のお願い

日々努力を重ねる看護学科の学生が、少しでも快適な学生生活を送れるよう、皆さまの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。事業の詳細い内容・ご寄附はこちらから



令和7年度 患者数等統計

(財務課)

区分	外来 患者延数	一日平均 外来 患者数	院外 処方箋 発行率	初診 患者数	紹介割合	入院 患者延数	一日平均 入院 患者数	病床 稼働率	前年度 病床 稼働率	平均 在院日数 (一般病床)
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
1月	26,303	1,384.4	97.7	939	102.1	14,175	457.3	82.4	74.0	10.7
2月	24,296	1,349.8	97.7	854	101.8	13,783	492.3	88.7	80.8	10.6
3月	29,237	1,392.2	98.2	990	100.9	14,925	481.5	86.7	78.5	10.3
計	79,836	1,376.5	97.9	2,783	101.6	42,883	476.5	85.9	75.1	10.5
累計	331,750	1,370.9	97.8	11,808	102.0	170,629	467.5	84.2	76.0	10.2

時事ニュース

- ・入学式 4月6日
- ・看護の日 5月11日
- ・看護週間 5月10日～16日
- ・医大祭 6月6日～7日
- ・合同入局説明会 6月12日



編集後記

この数年で様々な分野でAI技術が導入されてきた。AIで生成された画像・動画を用いた広告も目につくようになり、見る側としても段々目が肥えてきたのか、なんとなく「これAIだな」と気づけるようになってきた気がする。著作権や肖像権、情報リテラシー、法整備など課題も多いが、今まで人間が手掛けてきたことが機械でできるようになると、今度は伝統技術よろしく「AIに頼らず人間の手で生まれた作品」であることに付加価値がつくようになるのだろうか。

薬剤部 薬剤師 櫻庭 好祐